

INMM/ESARDA 合同年次大会概要

5月22日～26日、INMM年次大会（第64回）がESARDA（欧州保障措置研究開発協会）との合同年次大会として主題「Atoms for Peace : Evaluation of Technologies for the Future 平和のための原子力：将来に向けた技術評価」の下、ウィーンのオーストリアセンターにおいて開催された。INMM年次大会が米国以外で開催されるのは今回が初めてであり、約750名の会場参加者に加えてオンラインによる参加および発表もあった。



冒頭のマーク・スカファイン INMM 会長およびマリ・ラハティ ESARDA 会長の開会挨拶に続けて、「平和推進のために取組まれている現在の課題」をテーマとした開会全体セッションに入った。まずグロッシー-IAEA 事務局長（急用のためビデオ講演となった）から、戦時下にあるウクライナの原子力施設に対し、安全維持に係る監視活動、保障措置の実施対応や核セキュリティ維持に係る活動のために29チーム、スタッフ69人で取組んでいること等を講演し、さらに、原子力施設で作業に携わる人達に対する医療の支援活動等について説明した。

ロバート・フロイド氏(CTBTO：包括的核実験禁止条約機関準備委員会)より、「核実験禁止：これまでの成功と今後」と題して、1996年のCTBTO設立以降の監視活動、特に監視に用いる地震解析技術、微気圧振動および大気中の放射性物質等の分析技術を含む環境分析技術およびCTBTOの検証活動の紹介がなされるとともに5月のG7広島サミットの決議についても言及がなされた。続いてジル・フルビー氏(DOE：米国エネルギー省)より、「変化する世界における原子力エネルギーと核セキュリティ」と題して、核不拡散に係る取組において探知された約120件の密輸事象、衛星画像解析技術を用いた対応、SMRや革新炉等次世代炉を踏まえた持続可能な開発目標（SDGs）について講演がなされた。



AI 搭載ロボット

最後にステファン・レクナー氏(ユーラトム部長)より、「ユーラトム保障措置の展望における平和と進歩に向けた課題対応について」と題して、ユーラトム保障措置における約1,900のミッションを120人の査察官で対応し、IAEAとは異なり核兵器国であるフランスの全民生利用施設に対する保障措置活動も実施していること、IAEAとは、非核兵器国の加盟国にはINFCIRC/193に基づき、核兵器国のフランスにはINFCIRC/290に基づき保障措置が実施されていること、特に、核兵器国と非核兵器国が存在する欧州諸国において核戦争を引き起こさない取組を含め講演がなされた。

開会全体セッションに続けて、技術セッション、パネルセッションが行われた。今回の年次大会の特徴として、ロシアのウクライナ侵攻を踏まえた特別セッションや世界の原子力の新たな局面を迎えている状況が垣間見られるセッションである「①アフリカ諸国における保障措置の向上（Uplifting）、②AI・サイバー・ロボット、③地層処分に係る保障措置、核セキュリティ対応、④革新炉やSMR等の次世代炉に係る保障措置、核セキュリティ」などを含め74セッションで416件の発表と2日間にわたるポスターセッションで39件の発表が行われた。さらに、22のパネルセッションと6の特別セッションが実施されるなど内容の充実した年次大会であった。2024年の年次大会は、7月21日～25日 米国オレゴン州ポートランドで開催される。日本からも多くの方が参加され、技術力向上と世界との人脈構築に資する場として頂きたい。

（事務局長 岩本 友則）

目次

INMM/ESARDA 合同年次大会概要	1
企画委員会・年次大会プログラム委員会・広報委員会の活動内容紹介	2
メンター部会・学生部会の活動内容紹介	3
パリ便り	4
会員コーナー	4
編集後記・INMM / INMMJ コーナー	4

本資料は、日本核物質管理学会の活動を幅広く発信し相互コミュニケーションの場を提供する広報誌です。右のQRコードにアクセスしてアンケートにご協力して頂きますよう、よろしくお願い申し上げます



企画委員会の活動内容紹介



浅野 隆氏

企画委員会委員長の浅野です。企画委員会は、委員長、副委員長と6名の委員で構成されており、さらに、顧問の方（2名）にもご協力頂きながら活動を進めております。主な役割は、研究会等の企画とその実施・運営および核物質管理時報の編集方針の策定です。

研究会は、年に2回から3回の頻度で開催しております。研究会の開催にあたっては、学会内の方々の業務や研究の一助となるような企画を開催するように心がけております。最近では、学会内の専門家や外部講師をお招きして「核セキュリティ部門の人材育成」や「核セキュリティ分野における情報システムセキュリティ対応」を題材にした研究会を開催しております。これら研究会の概要は、Newsletter Vol.6、Vol.7に掲載されておりますので、ご興味ある方はご一読下さい。

近年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、Web方式で研究会を開催しておりますが、今後は、対面方式での開催や、対面とWebのハイブリッド方式での開催も検討していく予定です。積極的なご参加をお待ちしております。

もう一つの役割である核物質管理時報の編集方針の策定ですが、年1回発行されている核物質管理時報の記事内容の検討及び執筆者の選定等を行っております。核物質管理時報は、会員専用ホームページで公開するとともに、賛助会員（協賛企業等）の方々にも配布していることから、核物質管理に係わる社会情勢等の専門家以外の方々にも興味を持って頂けるような内容を検討しております。

これからも学会員や賛助会員の方々、さらには、一般の核物質管理業務に従事されている方々に興味を持って頂けるような企画を検討していきたいと考えております。研究会や時報記事として企画を希望するような案件があれば、事務局までご連絡頂けると幸いです。

(企画委員長 浅野 隆)

年次大会プログラム委員会の活動内容紹介



山口 知輝氏

本年4月より年次大会プログラム委員長を務めさせて頂いております日本原子力研究開発機構の山口と申します。これまで、学会の活動にはあまり関わっておりませんでした。本年の年次大会が無事に開催できるよう、皆様のご支援・ご指導の下、取り組んでまいりたいと思っております。

さて、本プログラム委員会の活動ですが、文字通り年次大会プログラムの策定と年次大会の運営を行うものであります。具体的に申しますと、開催案内の準備、招待講演や企画セッション等の調整、発表論文やポスターの審査、論文集への広告掲載組織の発掘と調整、年次大会での関連機器展示企業との調整等多岐にわたるものでございます。私自身、4月にこの活動を始めたばかりで、自分でこの記事を書いて今後行わなければならない業務にプレッシャーを感じている

ところではありますが、私以外は経験豊富な委員ばかりでとても心強い限りです。

総勢8名で組織されているプログラム委員会ですが、現在は、本年度の年次大会の日程や開催場所について議論を行っているところでございます。前はハイブリッドでの開催となり、来場が困難な方々でも参加できた一方、会場がやや寂しくなったこと、裏方の苦労や機械的なトラブルなど多くの課題があったことも事実でございます。本年度は、このような前回の実績や反省点、頂いたご意見を踏まえて皆様のニーズに応えていくとともに、より多くの方々に参加頂けるような魅力的なプログラムを策定していきたいと思っております。今後とも皆様のご意見等お待ちしております。

(プログラム委員長 山口知輝)

広報委員会の活動内容紹介



後藤 晃氏

本年4月から広報委員会委員長を拝命した後藤です。当広報委員会は2021年7月に設置された、本学会の中では新しい委員会です。委員会としての任務は、今皆さまにご覧頂いている学会Newsletterを始めとして、学会ホームページ、パンフレットなどの媒体を通じて、年次大会や研究会などを含む、学会の様々な活動・取組を内外にお知らせすることにより、学会の価値と知名度を高めるとともに、米国を始めとする国際情勢を踏まえつつ、我が国の核セキュリティや保障措置(2S)の維持・向上に貢献していくことです。3Sのもう一つのSである原子力安全と異なり、なかなか情報交換・共有がしづらいつつもされているこれらの分野ですが、幅広い関係者が自由に意見交換できる学会という場を存分に活用頂けるよう、少しでもお役に立てればと考えています。

さて、6名のメンバーからなる当委員会では、侃侃諤諤のやりとりもしながら、4半期毎に発行される Newsletter の構成検討や原稿作成のお願いと取りまとめ、ホームページ、パンフレットの定期的見直し・改善などに、学会の皆さんの叱咤激励や協力を頂きながら取り組んでいます。Newsletter は 2021 年 10 月に創刊号を発行し、今回で第 8 号となります。Newsletter に対する皆さまからのご意見やご感想はもとより、掲載ネタの提案（売り込み）などが我々にとっては大いに励みと助けになりますので、今後とも、幅広くご意見やご提案を頂けるよう、期待しています。よろしくお願いたします。

(広報委員長 後藤 晃)

メンター部会の活動内容紹介



千崎 雅生氏

2022 年 10 月から本格的に「メンター部会」の活動を開始しました。齊藤元会長の推薦で私が部長を務めることになり、そして部会メンバーとして 10 名（3 役と INMMJ 事務局を含め）で本格的な活動を開始しています。本部会は、「会員の経験と優れた知識や技術力を活かして、核物質およびその他の放射性物質管理に関する技術伝承、知識管理、次世代人材育成等への活動の支援を目的」として活動しています。具体的には、過去の貴重な核物質等に関連する資料等が散逸しないよう、学会等の組織や個人等の所有資料のアーカイブ化、また併せて教材等の作成を含む次世代人材育成の諸事項の推進も実施いたします。これまで、3 回の部会を開催し、資料のアーカイブ化の計画・進め方、資料収集に向けた具体的な取組計画の策定、アーカイブ資料の収集対象者の選任、収集した資料取扱・公開方法、知財・著作権に関する課題の明確化と対応、アーカイブ事業の予算化、学会事務局の課題等について議論を行ってきました。具体的には、まず当学会理事会メンバー、委員会・部会の幹部等の方々を対象に、「資料のアーカイブ化に向けての予行演習」のためのアンケート調査を行います。既に本年 5 月 29 日付け当学会事務局メールでアンケートのお願いをいたしました。今後、アンケートの結果に基づいて、本件調査にご協力頂いた皆様に、具体的な資料・情報収集（書籍、PDF、WORD 等）へのご協力をお願いをいたします。これらの作業を通じ、本格的なアーカイブ化作業の課題・問題等の抽出を行います。そしてそれらの解決を図り、当学会員、原子力関係者、その他関係者の皆様のご協力を得て推進したいと考えています。当メンター部会の活動は、国内外の原子力開発・核不拡散・保障措置・核セキュリティ等の核物質管理に関連する過去の書籍・資料・情報等に接する大変良い機会でもあります。本部会の活動に関心のある方、若手の皆さん、メンバーとしての参加を大いに歓迎いたします。

(メンター部会長 千崎雅生)

学生部会の活動内容紹介



CHONG
Hong Fatt 氏

学生部会は原子力安全、核セキュリティおよび核不拡散に関心を持つ大学・大学院・高専生を対象とした部会である。現在、東京大学、東海大学及び東京工業大学から、日本、マレーシア、アメリカ、中国とサウジアラビアからの部会員 18 名が所属しており、国籍の多様性がある。2023 年度は、会長の Chong Hong Fatt（博士課程 1 年）、副会長の Eva Lisowski（修士課程 2 年）と幹事の江口綾（修士課程 1 年）の体制で運営している。学生部会の活動として、第一に年次大会における若手・学生ショートプレゼンテーション、ポスターセッションの運営がある。過去の発表では、原子炉の設計、核燃料サイクル、核セキュリティ、核不拡散、核兵器近代化の問題、非破壊測定技術、サイバーセキュリティに関するものなど多岐にわたる。多くの聴講者の方との議論や意見交換ができ、学生にとって非常に有意義なセッションを目指している。第二に、様々なイベント企画がある。過去には、柏崎刈羽原子力発電所見学を行った。今年度は、IAEA 東京事務所の見学などを検討している。

また、年次大会の旅費支援や米国本部の年次大会参加費用支援などの学生会員としての特典が受けられるのも他にない大きな特徴である。

本学生部会は、魅力ある企画や様々な支援によって、学生会員がより広く近く核物質管理に関わる機会となり、専門家とのネットワークを広げるきっかけ作りとなることを目指している。そして、より多くの大学・大学院・高専所属学生に部会活動範囲を広げ、核物質管理に関心を持つ学生同士のコミュニティをさらに広げていきたい。

(学生会会長 CHONG Hong Fatt)



ポスターセッション風景



柏崎刈羽原子力発電所見学

パリ便り



蛭田一彦氏



ある日のデザート

フランスは日本の食文化に対する興味、尊敬の念が世界で最も高い国の一つではないでしょうか。スーパーには必ず日本食材が並んでいますし、日本食材専門店はいつもフランス人で混雑しています。またパリにはあらゆる種類の本格的和食レストラン（懐石、寿司、鰻、蕎麦、うどん、とんかつ、カレー、さらには串揚げ、お好み焼き、たこ焼き等々）があって、パリ近郊で醸造した日本酒（「日本酒」とは呼べないそうです）を飲めるお店もあります。そしてたくさんの日本人シェフによるフランス料理店があり、これはフランス人が和食だけでなく、日本の食文化を背景としたフランス料理をも受け入れていると言えると思います。私たち夫婦はそんな日本人料理人を応援するという口実で（実は日本語が通じるので）フランス料理も含めたパリの日本人レストランを頻繁に訪れています。そこのルールは和食であってもフランス産のシャンパンかワインと合わせることで、そうすることで食の日仏融合を多層的に楽しんでいます。嬉しいのはそんな日本人レストランの評価がどこでも非常に高く、そしていつもたくさんのフランス人で賑わっていることです。皆さんもフランスにお越しの際は是非日本人シェフによるフランス料理、さらには和食も味わってみてください。

(OECD/NEA 蛭田一彦)

会員コーナー



新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが2023年5月8日、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。JNFL社内でも、マスク着用の義務、食堂の亚克力板、在宅勤務等、コロナ対策が緩和されました。個人の判断にゆだねられたマスクについては、いつ外そうか、周りの様子をうかがいながら、タイミングを見計らっております。しかし、完全に元に戻るにはまだまだ時間がかかりそうな気がします。思い返すとコロナ対策が始まった当初も在宅勤務やオンライン会議に順応するのに苦労したことを思い出します。少しでも早く元の生活に戻れることを願っております。また当学会においては、コロナ期間中、年次大会をオンライン開催としたり、懇親会を自粛・縮小したり、コロナ禍でも工夫をしながら継続して参りました。2023年の年次大会は昨年に引き続き対面とオンラインでの併催を予定と伺っております。ポスターセッションやパネルディスカッション等、対面による活発な議論が戻ってくることを期待しております。

(日本原燃 中村 慎宮)



相楽研究室(工学博士課程)と池上研究室(技術経営専門職学位課程)所属の原です。昼間は東京電力HDに勤務しつつ、東工大でデュアルディグリー学生をしています。なお、技術経営は、技術の社会実装を学ぶ課程であり、社会人学生が大半です。

主な研究テーマは、浮体式原発の「洋上」特性に着目した Security と Safeguards 関連です。業務内容としては、ABWR 運転員→事故時手順書の改定→緊急時対応→パフォーマンス監視、と Safety 側のキャリアを歩んでいますが、研究で学んだことを活かして、事業者における「3S」人材を自ら体現しつつ、原子力業界にその重要性を啓蒙していく所存です。趣味は「仕事」と「店飲み」で、好きな言葉は「時間間隔の超越」「睡眠欲求の回避」です。メチャメチャ働いて、メチャメチャ飲んで、少しだけ研究活動をしています。

(東京工業大学 原 大輔)

編集後記

今回は、INMM/ESARDA 合同年次大会概要と INMMJ 各委員会・部会の活動紹介がテーマです。今秋に開催予定の我が方の年次大会も、ウィーンでの合同年次大会と同様に充実したものとなるよう、各委員会・部会でも盛り上げていきたいと思っております。なお、次号では年次大会の概要について取上げる予定です。

(広報委員長 後藤 晃)

編集・発行：日本核物質管理学会

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3

日比谷国際ビル2階220号室

TEL:03-6371-5830, 5835

E-Mail:jimukyoku@inmmj.org <http://www.inmmj.org/>

INMM/INMMJ コーナー

1. 第44回年次大会について

第44回年次大会は2023年11月21日、22日に東海村AYA'S LABORATORY 量子ビーム研究センターにて開催予定です。詳細は学会HPをご参照ください。

2. 時報について

同志社大学浅田正彦教授に執筆をお願いし、「ウクライナ戦争と核兵器の問題」と題した第十四報を2023年10月発行する予定です。

3. アンケートの実施について

INMMJは、会員の皆様にアンケートを実施しておりますので、皆様方の忌憚のないご意見を頂けますようよろしくお願い申し上げます。